

---

## ニホンイシガメとクサガメの雑種個体の稔性について

上野真太郎<sup>1</sup>・亀崎直樹<sup>2,3</sup>・佐野光彦<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 東京大学大学院農学生命科学研究科

<sup>2</sup> 岡山理科大学生物地球学部

<sup>3</sup> 神戸市立須磨海浜水族園

Fertility of hybrid individuals between *Mauremys japonica* and *Mauremys reevesii*.

By Shintaro UENO<sup>1</sup>, Naoki KAMEZAKI<sup>2,3</sup> and Mitsuhiko SANNO<sup>1</sup>

<sup>1</sup> Graduate school of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo.

<sup>2</sup> Department of Biosphere-Geosphere Science, Okayama University of Science.

<sup>3</sup> Kobe Suma Aquarium

---

野外で捕獲したニホンイシガメ(以下, イシガメ)とクサガメの雑種と疑われる個体(以下, 雑種)を飼育観察することにより, その抱卵率や産卵数を調べた。まず, 抱卵率を調べるため, 2015年6月に雑種のメス27個体に対しX線写真撮影(57kV, 160mA, 0.045s)を行ったところ, 17個体で卵を確認した(抱卵率63%)。次に抱卵していたメスを産卵期の間, 1個体ずつ分けて飼育し, 産卵した卵を回収して1腹卵数(クラッチサイズ)と卵サイズを調べた。その結果, 2015年7月11日から8月4日の間に11個体から11クラッチ78個の卵を回収した。得られた雑種の卵に関する情報は1腹卵数が $7.2 \pm 2.0$ 個(平均 ± 標準偏差, n=11, 範囲: 3-10), 卵サイズが長径  $37.9 \pm 3.0$ mm(平均 ± 標準偏差, n=78, 範囲: 31.1-44.4), 短径  $23.4 \pm 1.3$ mm(平均 ± 標準偏差, n=78, 範囲: 20.5-25.8), 卵重が  $12.6 \pm 2.2$ g(平均 ± 標準偏差, n=78, 範囲: 8.0-16.1)となった。これらの値を既存のイシガメとクサガメの値(深田・石原, 1974, 1976; 石原, 1986; 矢部, 1991, 1995; Yabe, 1994)と比較したところ, 1腹卵数はイシガメ<雑種<クサガメとなり, 卵サイズは長径が2種とほぼ同じで, 短径と卵重が2種よりもやや大きくなった。次に回収できた卵を孵化させたところ, 孵化したのは11クラッチ78個中4クラッチ14個のみで, 孵化した卵のクラッチごとの孵化率は14-88%であった。なお, 同条件で孵化させたクサガメの卵(1クラッチ7個)は孵化率100%であった。また, 孵化した子ガメのサイズは背甲長  $33.6 \pm 2.3$ mm(平均 ± 標準偏差, n=14, 範囲: 30.7-38.0), 体重  $8.1 \pm 1.2$ g(平均 ± 標準偏差, n=14, 範囲: 6.1-10.2)となった。深田・石原(1976)のイシガメとクサガメの幼体サイズと比較すると背甲長がクサガメ<雑種<イシガメ, 体重がクサガメ<雑種≒イシガメとなった。以上のことから雑種は卵殻付きの卵を生成する能力はあるものの, 孵化率が悪く発生過程に何らかの問題が生じている可能性がある。ただし, 孵化した子ガメは形態的には2種に劣る点は確認できなかった。